

水稻の高温耐性品種への品種転換誘導による品質の向上

対象者 管内水稻生産者群

【普及活動のねらい】

管内の水稻 1 等米比率は、長年県平均を上回っていましたが、令和元～2 年度は県平均を下回り、品質低下がみられたところであり、改善が強く望まれています。品種により差が見られ、「みずかがみ」は毎年高い品質を維持していますが、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「日本晴」の品質が安定していないのが現状です。

そこで、関係機関と連携して、「コシヒカリ」の品質向上や、「キヌヒカリ」、「日本晴」から「みずかがみ」やその他の高温耐性品種への品種転換を誘導することで、管内の米の品質の向上を図ることをねらいとしました。



早生品種の現地研修会の様子

【普及活動の内容】

「コシヒカリ」の品質向上対策

JA と連携し、啓発資料の配布や現地研修会の開催等により、「コシヒカリ」の生産者を中心に基本技術の励行を呼びかけました。特に、今年は斑点米カメムシ類の発生量が 7 月中旬に急上昇したため、緊急防除情報を全農家に配布しました。

「キヌヒカリ」「日本晴」から高温耐性品種への転換

啓発資料を活用し、「キヌヒカリ」や「日本晴」の生産者に対して、「みずかがみ」などの高温耐性品種への品種転換を進めました。特に、「日本晴」の作付けの多い 6 つの集落に対しては、11 月下旬から 12 月中旬に JA が主催して行った農談会等に参画し、重点的に働きかけました。

【普及活動の成果】

稲作情報や研修会等を通じた情報提供や現地指導により、効果的なカメムシ防除や生育に応じた栽培管理など、各地で地道な品質向上に向けての取組が行われました。結果、「コシヒカリ」の品質は 1 等米比率が 77.7% (1 月現在) と前年の 68.3% より改善し、県平均を上回る見込みです。

品種転換に関して、「日本晴」の品質低下は生産者の問題意識も高く、他品種への転換が前向きに検討されています。

当普及指導センターは今後も JA と連携し、水稻の 1 等米比率向上に向けての活動を展開していきます。



品種転換誘導策の資料